



### これは何でしょう



答えについての思い出を是非お待ちしています。

■しめきり 2月13日(金)必着  
■あて先 〒783-0501 南門市大浦甲二二〇-1 南門市企画課親子クイズ係  
■賞品 正解者の口から抽選で5人の人に図書券を進呈  
◎第3回親子クイズの答えは、ホンガキ(ツルンガキ)です。

第30回当選者発表(敬称略)  
(応募総数約10通)

- 西村 孝之(浜田)
- 栗原 充代(國書町)
- 門田 紗幸(植田)
- 浜田 洋平(久礼田)
- 野口 美紀(久礼田)

### ☆ 思い出がいっぱい ☆

◆友人がしぼ柿をたくさん送ってくれました。初めて皮をはぎました。無くなかったのだからいかにできるか心配をしましたがよい味にできあがり。ほっとしました。(村田 美智子)

◆私は中学校二年生です。ことしの秋、初めて親に干し柿を作らされました。今では色も変わり、おいしくできました。(仙頭 園恵)

◆干し柿のころは各家ごとの軒下に干し柿がつるされていて、近頃はめったに見ることがなくなり、今の子どもたちは口にするともなくなくなりました。私が子どもの時はお菓子のかわりに食べたものでした。(野村 俊子)

◆私は柿が大好き。夫の実家にも今は干し柿がズラリとつるしてあります。先日も取って食べたばかりです。(岩原 静世)

◆子どもはあまり好んで食べませんが、母はときどき物干し竿に洗濯物のようにつるして作っています。(町田 知美)

◆干し柿はこの時期になるといつも干し柿と一緒に食べます。おばあちゃんが作って送ってくれます。特に下の子は大好きで一度に二、三個食べてしまいます。だからすぐになくなってしまう。(国藤 知恵)



## 国府史跡保存会 平成九年度 県文化賞受賞



文化の向上に顕著な功績のあった個人・団体に贈られる県文化賞(九年度)を受賞した「国府史跡保存会(竹内隆造会長 会員七百八十五人)の受賞祝賀会が、一月十八日に開催されました。国府地区の史跡の清掃や管理・アビールなどを続けてきた実績が認められたものです。集まった会員らは、お互いの努力と成果をたたえあったり、

子どもたちへの伝統継承や、国府跡跡を公園化する目的で土地を取得し、将来の記念館もしくは資料館建設への備えをしっかりとっておきたいの熱い思い、また今後の活動とテーマなどについてそれぞれ決意を語り合っていました。永く活動してきた前会長の乾常英さんは「百年、二百年先のことを考えると、どうしても公園用地としての空間を相当地度確保しておきたい。そのことがこの地の先祖と子孫に対する義務と位置付けて、活動を続けたい」と語っていました。



竹内 会長 と 乾 前会長

## 子どもたちに たっぷり図書を

### 市民から多額の寄付金…教育費にあてて

大浦の竹村姑壽恵さんは、大浦小学校で永くお務めになられた元用務員さんで、そのご遺族から「故人が世話になった大浦小学校の子どもたちの図書費に」と、昨年十二月二十四日、二百万円を寄付していただきました。



故 竹村 姑壽恵さん

同じ日に、植野の安藤茂さんからも「自身と子・孫の三代がお世話になった久礼田小学校の図書費に、二百万円が寄付されました。寄付金の受け渡しがあった市長室では、市長・教育長の立ち会いの中、それぞれの学校の校長先生と児童の代表が「ありがとうございます。終業式で全校児童に報告するとともに図書費



として、大切に使用させていただきます」とお礼を述べました。市長に、「財源に限りがあり、十分な学校図書費が予算化できないでいる現状の、こんな時期に多額の寄付の申入れは大変ありがたく感謝します」と謝辞を述べ、感謝状を贈りました。関係者は思いがけないクリスマスプレゼントに大喜びでした。

## 特別養護老人ホーム 「陽だまりの里」 ケアハウス「つくしんぼ」 がオープンしました



同豊町(高知医大南)に総合福祉ゾーン建設を進めている社会福祉法人「ふるさと自然村」(山本恵三理事長)は、一月三日、その一翼を担う特別養護老人ホーム「陽だまりの里」とケアハウス「つくしんぼ」などの落成式を行いました。また、十七日には施設の一般公開も開催され、多くの見学者が訪れました。鉄筋コンクリート六階建て、延べ床面積六千六百九十九平方メートルの施設には、「陽だまりの里」や「つくしんぼ」のほか、デイ・サービスセンター「ぬくもり」、各種教室(囲碁・将棋・手芸・陶芸・書道・詩吟・俳句・茶道など)のための倶楽室も完備しています。そして、地域に密着した働きを行うための憩いの広場の専用スペースとして「地域交流スペース」も設置しています。このスペースは、地域の老人クラブや婦人会にも開放されます。この施設の完成により、入所待機者の問題が一定解消し、家族の看護負担も軽減できることとなります。

### 短歌

夕光に照りし深木ぬばたまの  
鳴啼きたつ声もぬばたま  
三島 有元 一馬

珊瑚色に澄みし夜空に輝ける  
星のひとつに君在るを見き  
後免町 刈谷 益子

独り居の部屋にも飾る重ね餅  
年に一度の松竹を添く  
立田 北村 幸江

年賀状年ふる毎に寂しさの  
心を合せ合ふ同窓の友  
植野 原 茂子

延びてゆく自動車道に淡谷多く  
橋下の庭に紅葉舞いおり  
領石 唐若 勇

### 俳句

青年の兄を先立て初詣  
物部 山川 邦子

風に吹る柏の枯葉実彦邸  
明見 木戸 節

日溜りにみな飽食の初春  
前浜 中村 榮生

手をひかれ共にくらしした五十年  
上末松 柳野まよ子

飼いうづら初日に向き羽ばたきぬ  
浜改田 渡辺 保

### 川柳

一歩を退いた危間に風邪が来る  
田村 川口 岩春